



発行者

島根県健康福祉部

医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

年頭のごあいさつ 地域医療最前線 NO.44 《加藤節司 院長》  
 看護師さんのページ NO.24 《磯田典子さん》 研修医のページ NO.27 《高橋正太郎先生》  
 総合医育成の取組 地域医療を守り育てる取組 医学生への働きかけ



## 年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

医師確保対策室長 稲田 勝

皆様、あけましておめでとございます。

旧年中は、医療政策課医師確保対策室に格別なるご支援、ご協力をいただきありがとうございました。本年も変わりがありません。

さて、島根県では、平成21年度に県東部地域（雲南圏域・隠岐圏域・安来市）と県西部地域（大田圏域・浜田圏域・益田圏域）を対象とする「島根県地域医療再生計画」を策定し、医師・看護職員確保対策やマンパワー不足を補うための対策に取組んできましたが、昨年は、これに加え、全県を対象とする「島根県地域医療再生計画（拡充分）」を策定し、「地域医療の担い手の育成・確保対策」や「地域医療機関の連携強化」などにさらに一層力を入れることとしました。

「地域医療の担い手の育成・確保対策」では、大学、医療機関、医師会、行政が一体となって、若手医師を支援する「しまね地域医療支援センター」を昨年8月に島根大学と当室内に設置し、島根県に軸足を置いて専門医資格の取得を目指す若手医師等への支援やワークライフバランスの推進などに取組むこととしています。



このほか、病院が実施する医師や看護職員等の研修環境整備や職員宿舍整備などへの支援なども計画に盛り込んでいきます。

また、現在の厳しい医療情勢のなかで地域医療を支えていくためには、各医療機関の一層の連携を図ることが重要であるため、「地域医療機関の連携強化」では、ITを活用した医療ネットワークの推進や医療機関の施設・設備整備への支援などに取組みます。

島根県内における医師不足は、依然として厳しい状況にあり、医師の地域偏在や診療科偏在も深刻化しています。これまでの「赤ひげバンク」や「医学生向けの奨学金制度」などに加え、これらの計画の着実な実施により、一人でも多くの医師に県内で勤務していただけるよう、全力をあげて取組む所存です。皆様方の変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

地域で、地域の研究機関・企業と協働で、地域の人の協力を得て、研究に取組みはじめ7年になります。

この間に川本特産で「畑の青魚」と



加藤病院 院長 加藤節司

社会医療法人仁寿会もうひとつの

地域医療最前線へ愛念に感謝

「DHAが認知症予防に効果」広島にある大型スーパーの魚屋さんの軒先に掲げられていた新聞記事の見出しです。私の子供が「あつ」と気づきます。

加藤病院が島根大学医学部、島根県立大学看護学科とふるさと川本で取組んだ「認知症予防と食事栄養」に関する共同研究の成果を紹介する記事でした。

島根からの情報発信です。本稿では仁寿会の診療分野を除いた地域医療最前線をご紹介します。



地域の人々と健康課題に取り組むスタッフ-地域研究の一コマ

DHA(ドコサヘキサエン酸)は、魚油に含まれる不飽和脂肪酸の一種。人体内では、リノレン酸から生成される。

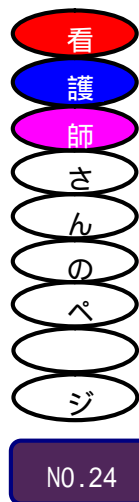
呼ばれる『えごま』を活用した介入研究も行いました。えごまは、脂質の中でも現代人に不足しがちな「リノレン酸が豊富なシソ科の植物です。『えごま玉子』の開発協力では、安全で美味しい県産品認証制度「美味島根（おいしまね）」第一号という栄えある認証を取得しています。共同研究では、多くの技術者、医療関連専門職、医学生、看護学生が川本に集うという数多くの出会いもまた素敵な余録かもしれません。

「ご存じアルマアタ宣言にもあるように、私はプライマリケアを「地域に住む人々みんなで協力し合って、みんなが健康になり、幸せになるための、みんなによる主体的な活動」と理解しています。従って、地域で取り組む研究も、健康課題に対する重要な主体的活動の一つとなります。地域の皆様が研究に参加することで健康に関する学びを深め、健康を増進させることができる、そんな機会を私たちが提供できるのもまた地域の皆様のおかげです。研究を通じ、力を合わせて健康長寿の実現という目的に進むことができます。

こうして私たちは、恵まれた環境で医療活動をするこの安心と幸せを五感で見知します。研究はもちろん、診療、医療教育すべての活動領域で「守っていたらいいこと」を実感して

います。地域で医療を提供するということは、人を守る、地域を守る、国を守るばかりでなく、私たち医療関連専門職にあるものも守られることを意味するというところに得心できるのです。川本町はじめ島根に暮らす人々の温かな愛念に感謝あるのみです。

現在、病床数は242床、5病棟の内、集中治療病棟、児童・思春期病棟も設置されており、小児から成人、急性期から慢性期の患者さんに医療を提供しています。職員は152名従事しており、内看護職員は111名です。その平均年齢は37歳で各年代で平均的にいます。毎年、新人看護職員が5〜10名入職し、爽やかな新風を吹き入れてくれています。



島根県立こころの医療センター  
看護局長 磯田 典子



10年前のスタッフの笑顔 - 当時102名が現在174名と組織は順調に成長

社会医療 法人仁寿会  
「僻地医療分野で山陰初の社会医療法人認定、常勤職員数174名の医療介護複合事業体。」

詳細は <http://www.k-jinju.or.jp/>  
(数値はすべて10月31日現在)

加藤病院「在宅療養支援病院」訪問診療対象者288名(読売新聞平成23年3月6日、病院の実力島根編「在宅医療」に診療内容掲載紹介。)

一般病棟27床(一般病床17床/平均在院日数15.0日/亜急性期病床10床/在宅復帰率100%)  
医療療養病床58床/医療区分2・3の割合87.3%

・日本医療機能評価機構 Ver.6.0認定病院

鳥根県立こころの医療センターは、出雲市湖陵町に湖陵病院として昭和44年に開院し、平成20年2月に現在地(出雲市下古志町)に新築移転しました。県立の精神科病院として四十数年にわたり精神科医療を行ってきました。県内各地域の精神科医療機関との病病連携、病診連携を促進し、精神医療を支援し、先進的、モデル的な医療を目指す役割を担っています。



今年度は、日本看護協会主催のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加し、働き続けられる魅力ある職場づくりを目標にしています。その実現のため、事前にインデックス調査を行い、結果を分析し、目標に向かってアクションプランを実施しているところです。その調査の中で「病院が職員を大切にしていると思っている人」が87%と高く、嬉しく思うとともに、維持していくことの重要さを感じています。また、精神科看護領域における質の高い看護が提供できるように教育体制を整えています。特にコース



スタッフによるクリスマス会の出し物

別研修では卒後1〜3年目に基本的な看護を学び、そして専門性を深め、看護研究への取組も重視しています。経験者採用で精神科が初めての看護師に対しては、専門性が追求できるようにキャリアアップ研修を企画しています。院内には2名の認定看護師（認知症看護、摂食・嚥下障害看護）があり、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図るよう、院内外で活躍しています。今後も、一人でも多くの認定看護師が誕生するよう支援したいと考えています。

「誇りと希望と喜びを大切に、一人ひとりのところに寄り添う医療を提供します」という病院理念のもと、地域に信頼される病院を目指しています。



のページ

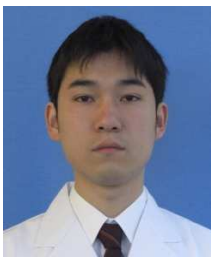
NO.27

島根県立中央病院

初期研修医1年目

高橋

正太郎



時間の経つのは早いもので、医師となりあつたという間に一年が過ぎようとしています。

研修が始まったのはついこの前だった

ように思いますが、そんな中でも、勉強する事や反省させられる事はかなりの毎日です。

島根県立中央病院は島根県内からあらゆる患者さんがきます。ドクターへも運用開始され、特に救急外来では様々な患者さんが集まります。そこでは研修医が主体的に診療を行い、風邪などの軽症から多発外傷などの重症患者まで様々な症例のファーストタッチを行います。基本的に自分で考えながら診療を進めていくため、非常に勉強になります。これは上級医が必ずバツクアップについており、コメディカルスタッフを含めて病院全体で熱の入った教育・指導態勢が整っているからこそ出来る事だと思えます。

また、手技や検査の訓練も自分達で望めば休日でも行うことができます。研修医同士で症例検討をするための勉強会等も定期的に行われています。非常に充実した環境であり、自分たちの努力次第で多くのものを得ることが出来る病院といえます。その中でも、特に魅力的な指導医がとても多い事がこの病院の最大の魅力だと思います。私はこの病院に来て、多くの尊敬できる先生方に出会う事が出来ました。そしてコメディカルスタッフや事務の方を含め、様々な方に支えていただいている

のを実感しています。

この病院で研修すると、一人の患者さんに対して多種多様な人が治療に関わっていくのを目の当たりに体感でき、様々なスタッフとともに患者さんについて考えることができます。医療に携わっていく上で大切な考え方がしっかりと学べ、確実に身に付くはず。現在、山陰に研修医は増えつつあるようですが、未だ不足しているのが現状です。今後も感謝の気持ちを忘れずに研鑽を続け、少しでも早く山陰の医療に貢献できればと考えております。

### 総合医育成の取組

#### 〓 大田市立病院 〓

医師不足の中、幅広い分野で総合的に診療する総合医が、今、注目を集めています。

平成23年10月、島根大学医学部では、総合医を育成するための研究を行う『総合医療学講座』を大学内に開設し、大田市立病院内には、教育・研究・研修の実践の場として『大田総合医育成センター』を設置しました。

現在、総合医療学講座に、全体をコーディネートする教授が1名、大

田総合医育成センター（以下「センター」）に外科系教授が1名、センター長として勤務されています。

センター勤務の教授は大田市立病院に常勤し、研修医の指導のほか、外来診療や病棟管理も担っています。センターはまだ1名体制ですが、来春には内科系教授1名、外科系准教授1名が新たに赴任予定で、スタッフも増え、センターでの研修体制も、また市立病院での診療体制も一層充実できると期待されています。

#### 島根大学医学部 総合医療学講座

総合医のプログラムの研究/医療支援システムの研究/予防医学の研究 など



#### 大田市立病院 大田総合医育成センター

総合医育成のため、学生や研修医の指導など



連携

大学と自治体病院が連携し総合医を育てる取組は全国的にも珍しく、大学の持つ専門性と市立病院が持つ幅広く診療ができる環境をうまく組み合わせ、総合医育成のモデルケ



スになればと考えています。  
また市立病院では、センターで研修された医師が、引き続き市立病院で勤務してもらえ  
るような魅力ある病院づくりを進め、  
医師不足の解消にもつなげていきたく  
いと考えています。

センターの総括責任者となる野宗  
センター長は、「センターの教官と大  
田市立病院の医師が診療科の垣根を  
外し、ひとつにまとまり、複数の診  
療科にまたがる医療チームにおいて、  
多くの疾患を初期診療から高度な治  
療まで、一貫して診療する体制を目  
指したい。」と抱負を語り、「この新  
しいセンターで、我々と共に一緒に  
学び一緒に仕事をしましょう。」と、  
呼びかけています。

【大田市立病院 事務部 島林】

### 地域医療を守り育てる取組

「地域医療支援コーディネータから」

11月27日(日)に大田市において、  
「島根地域医療を守り育てる住民活動  
ワークショップ・連絡会」が開かれま  
した。県内で地域医療を支えるために、  
各地で活動している住民団体の皆さん  
の交流・情報交換・ネットワーキング  
を目指したものです。

「地域が守る医療」と題して、丹波

新聞社の足立  
智和記者の基  
調講演から始  
まり、地域医  
療を守るため  
の様々な取組  
について話し  
合われました。  
総勢60名余  
りの参加者で  
した。住民・  
医療機関・行  
政がそれぞれ  
の立場を尊重  
しながら協力すれば、大きな力になる  
と確信しました。地域医療支援コデー  
イナーは、地域で働く医療従事者の  
ための環境整備等が役割です。働きや  
すい地域づくり、職場づくりに貢献す  
べく様々な取組をしていきたいと考え  
ています。



講師と共に、県内各地から集まった参加者全員で記念撮影

【島大地域医療支援学講座 吉岡】

### 医学生への働きかけ

11月20日(日)に大阪市において、  
医学生と研修医の懇談の場として「医  
学W.E.S.島根県」と題した交流会を開

催しました。この会は初めての企画で  
あり、島根県内で後期研修中の4名の  
先生方に参加していただき、医学生に  
対してそれぞれの臨床研修病院のPR  
を行った後、初期研修病院の選び方、  
各科の業務内容、診療科の決め方など  
を話してもらいました。医学生は、関  
西地方と岡山県の大学から10人の参  
加がありました。会の後半には、立食  
形式の懇親会  
も行いました。

医学生から



4グループに別れて懇談する参加者

は、大学病院  
と市中病院の  
それぞれのメ  
リットや研修  
内容の違いを  
聞くことがで  
きた。「地域で働く意義について、熱心  
に教えてくれた」「女性医師の働き方に  
ついて女性の先生から話を伺い進路の  
参考になった」などの感想が寄せられ  
ました。また、「島根県の病院見学に行  
つてみたい」という医学生も多く、か  
なり密度の濃い交流会となりました。  
今回参加された医学生が一人でも県内  
の病院で研修していただけるよう、医  
療機関と連携を取ってフォローしたい  
と思います。

【医療政策課 奥原】

### 島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生  
には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

### 医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じ  
ます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

### 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryu@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryu@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

